

2026 年 9 月 14 日

総合メディカルグループ株式会社

総合メディカルグループ、「ファーマシーフォーラム 2026」を開催
～「JUMP IN!」をテーマに、医療 DX や地域医療の現場課題に向き合い、
明日の薬局を牽引するソリューションを発信～

総合メディカルグループは、2026 年 9 月 13 日(日)に東京サンケイビル 大手町サンケイプラザにて、社内学術大会である「ファーマシーフォーラム 2026」を開催しました。

毎年開催している本フォーラムは今年で開催28回目を迎え、地域医療の現場に長く向き合ってきた総合メディカルグループの薬剤師・薬局事務スタッフが、日々の実践を通じて積み上げてきた知見と実績を共有する場です。患者さんや地域の健康に貢献するという使命のもと、全国の薬局から現場発の実践を持ち寄り、次の一步につなげていきます。

■ 開催テーマ:『JUMP IN! ～「私」が動く、明日が動く～』

今回の主題には、業界構造の変化や技術革新が目まぐるしく起きる現状において、「今、私に何ができるか」を起点とし、時代や環境の変化を糧に行動を起こす決意が込められています。一人ひとりの小さなアクションが同僚や薬局を変え、地域の「明日」を動かす”変化の連鎖”を生み出すスタート地点となる革新性と主体性にフォーカスしています。



会場の様子

■ 現場の課題解決と、次世代のソリューション構築をリードする取り組み事例

今年は、「医療 DX」「健康サポート・地域貢献」「薬学的ケア・療養支援」の各部門から、現場の課題解決に向けた具体的なソリューションとその成果が多数発表されました。

医療 DX の社会実装と質の向上：

- 生成 AI(Gemini 等)を用いた提案型トレーシングレポート作成機能の開発や、LINE を活用したPocket Musubiによる服薬フォローアップ・残薬調整の有用性検証など、テクノロジーを現場の業務負担軽減と医療の質向上に落とし込む取り組みを報告。
- マイナンバーカードを用いたオンライン資格確認システムから得られる特定健診情報や診療情報を活用し、薬物治療の適正化やプレアボイド(副作用回避など)につなげた実態調査も発表しました。

地域医療への参画と多職種ネットワークの構築：

- 薬局という枠を超え、地域包括支援センターと協働で実施したアウトリーチ型健康相談会や、循環器病アドバイザーによる啓発活動の成果を発表。
- 薬局事務スタッフ(ラウンドケアスタッフ)が主体となって行政と連携し、熊本南地区の薬局 10 店舗で認知症サポーターがチームで支援する「チームオレンジ」を実現した地域貢献活動など、新たなネットワーク構築のモデルケースを提示しました。

高度な薬学的ケアと療養支援の標準化：

- SGLT2 阻害薬による糖尿病性ケトアシドーシスのリスク認識向上や、トラマドール含有製剤使用患者に対する対応フォーマットの導入など、薬学的ケアの標準化を図る取り組みを報告。
- 高齢者福祉施設における医師の往診同行を通じた処方提案や、服薬支援ロボットを用いた在宅患者の過量服用防止事例、小児在宅医療やアトピー性皮膚炎患者のアドヒアランス向上に向けた支援など、あらゆる世代の課題に対するきめ細やかなアプローチが共有されました。



口頭での演題発表の様子

■ 複数部署の連携による地域伴走型ヘルスケアサービスの展望

後半部では、地域社会と伴走するヘルスケアサービスの進化に向け、ヘルスケア事業と医業支援事業を推進する本部 4 部署と現場薬局とのパネルディスカッションを実施しました。

「成長戦略と変革」をテーマに本部側が登壇し、「薬局の価値の境界線をどう広げていくか」という将来ビジョンを提示し、さらに、現場の薬剤師とリアルな課題やアイデアを交わす双方向の対話を通じて、当社グループが目指すべきビジョンを深く共有しました。

本部と現場が一丸となって地域医療・人々の健康を支える体制の構築を進めていくことで、地域課題の解決に貢献してまいります。



パネルディスカッションの様子

■薬局事業本部長 林田壮一郎は次のように述べています。「大会を通じて、当社グループの薬剤師・薬局事務スタッフの一人ひとりが、急速に変化するヘルスケア業界で主体的に行動を起こすことが未来を大きく変える原動力となり、地域の皆さまのヘルスケアにおける課題を我々の価値で解決していかなければならないと、より一層の覚悟を新たにしました。発表された知見とソリューションを全国へと広げ、これからも患者さんに選ばれ続ける薬局として、持続可能な地域医療の発展に貢献してまいります。」

■本大会の開催をリードした熊本南ブロック そうごう薬局 会富店 兼 富合店 薬局長を務める横手祐哉 は次のように述べています。「本大会では、日頃から現場で患者さんと真摯に向き合う社員の熱い想いが集結する場とすることができました。薬局を取り巻くヘルスケア業界が大きな転換期を迎え、私たち一人ひとりの主体的な行動が求められている中で、大会を通じて共有された医療 DX や地域密着の成果を当社グループ全体へ波及させ、持続可能な医療の発展を担う責任ある行動へとつなげてまいります。」

総合メディカルグループは、長年にわたり地域医療の現場に寄り添い、患者さん一人ひとりの健康を支える取り組みを積み重ねてきました。本フォーラムで共有される一つひとつの実践も、こうした歩みの中から生まれたものです。今後も、現場で生まれる「私」の一步を全国の薬局へと広げ、その積み重ねを新たな価値へとつなげながら、地域医療の発展とこれからの薬局の未来を切り拓いてまいります。

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

総合メディカルグループ株式会社 広報グループ

TEL:03-5255-6550 E-mail: koho-ir@sogo-medical.co.jp